

会議名	第1回宇部市産業振興計画推進委員会
日時	令和8年7月28日（火曜日）10時30分～12時00分
場所	市民交流棟 会議室D・E
出席者 （敬称略）	委員14名（欠席4名） 事務局10名 （宇部市産業経済部2名、成長産業創出課2名、産業政策課5名、(株)ジャパンインターナショナル総合研究所1名）
会議資料	・ 令和8年第1回宇部市産業振興計画推進委員会 次第 ・ 資料1 令和8年度第1回宇部市産業振興計画推進委員会資料 ・ 資料2 宇部市産業振興に係る基礎調査報告書 ・ 宇部市産業振興計画推進委員会 委員名簿 ・ 御意見アンケート
会議内容	
1. 重点施策の令和7年度の実績と令和8年度の取組について 2. KPI・施策評価と中間見直しの方向性について 3. 中間見直しの今後のスケジュールについて	
主な議事内容	
議題（1）重点施策の令和7年度の実績と令和8年度の取組について 議題（2）KPI・施策評価と中間見直しの方向性について 「事務局から、資料1・2について説明」 ⇒質疑・意見は以下のとおり ・ 調査報告書の最後の部分が今後の方向性につながってくると思うが、現状と課題を5つに整理し、基本方針が4つある中でねじれが生じないか懸念している。基本方針と課題のリンクが1：1にならないため、表現に工夫が必要である。（委員） ・ 細かい部分では、重点施策で説明いただいた、補助金の活用状況が進んでいない理由を掘り下げ、制度を使った人・使っていない人の声を聞きながら進めると良いと思う。（委員） ・ 商店街などの撤退に老朽化が要因となっていることが事実なのであれば「考えられる」ではなく、言い切ってしまった方がよい。（委員） ・ 目指すべき方向性で「市民の目に見えやすい産業への支援」とあるが、経済効果がきちんと出る産業であるかをセットで考えてほしい。市民に見える部分と、見えなくとも下支えになっている部分を見失わないようにしてほしい。（委員） ⇒基本方針と課題の数が異なることについて、基本方針は大きく変更する予定はないが、エッセンスとして課題を明確にし、整理した上で骨子に反映していきたい。（事務局） ・ 重点施策評価と基礎報告書との違いや位置付けなどが見えておらず確認したい。（委員） ⇒資料2は昨年度からこの委員会で検討し、委員からの意見を伺っていたものである。中ほどには、企業からのアンケートや社会情勢、外部環境の変化などを集約している。（事務局） ・ 人材確保、人材不足、高齢化といった課題に対する新たな雇用形態の確立などについては、媒体掲載のみならず、企業独自の立ち位置が重要になる。自助努力に加え、行政との連携無	

くしては新たな雇用も生まれてこない。中長期的な取組について更なる施策があれば教えてほしい。（委員）

- ・実績を踏まえてブラッシュアップして制度が活用できるようお願いしたい。（委員）
 - ・学校文化祭で企業の体験ブースを設けており、生徒のやりがいや自己成長のイメージにつながった可能性はある。こういった取組を継続していただきたい。（委員）
 - ・就職活動において保護者の意見が影響している。学校行事と合わせることで保護者の参加率は上がり、効果的であると感じる。（委員）
 - ・D Xの推進を数年前から行っているが、なかなか付加価値を生み出すことができていないことが今後の大きな課題である。（委員）
 - ・D Xが人材不足解消の大きな可能性を秘めているため、引き続き連携強化と情報共有を強めていただきたい。（委員）
 - ・女性活躍の推進については、3交代制の職場で女性に活躍していただいている。この女性活躍についての認定取得の支援があるとされていたが、認定取得にどんなメリットがあるのだろうか。（委員）
- ⇒健康経営も同じだが、企業の働きやすさ、女性の働きやすさとしての指標の一つになるのではないか。目先の対応に手をとられて、長期的な視点での対応には手が回らないのではないかと考えている。働きやすさや企業の魅力向上が職員の定着につながることは確信しており、その中での事業の一環として検討の余地はある。効果をしっかりと精査しながら事業の内容を見直し、事実・データに基づく判断をしていきたい。（事務局）
- ・宇部市における健康経営の取得率が、他の市町に比べてどの程度であるかを知ることができると良いと思う。（委員）
 - ・様々な計画がある中で、良い取組もあるが、どれくらいの方が内容を知っているのか。補助金などもあるが、どう活用したらよいのか、情報が届いていないことも多々あると思う。もっと計画の内容や補助金等の活用について知っていただけるよう進めていただきたい。（委員）
 - ・当団体はほとんどが小企業で人材不足が一番の課題になっている。選ばれる企業の魅力づくりと言われても給与面などしか対応できていない。休みを確保する方が良いと思うが、募集しても人が来ない、人が継続しないという中では、休みを確保するといった対応に手が回らない。そういった企業の声を明確にいただき、御協力いただきたい。（委員）
 - ・今の対策や取組は企業目線が強いので、学生目線での対策も必要になると思う。（委員）
 - ・産業を強化していけば雇用も増える。働きやすい職場や魅力の向上とあるが、企業自身が稼ぐ力を強くしなければできない。各企業が力をもって、強い魅力的な企業になっていくことが必要である。（委員）
 - ・伴走支援という言葉がたくさん出てきた。高市総理もプッシュ型伴走支援と言っていたが、問題は伴走支援する人がいるのか、その人に能力があるのか。伴走支援する人材の育成が重要でそれを含めて企業を強くしていく。企業が強くなれば、雇用が増える、従業員が増える、所得も増える、所得税も増える、法人税が増える。企業を強くするための様々な施策を行っていただきたい。（委員）
 - ・報告書が分かりやすく、外部からの指摘が良かったと思う。中間報告の数字の問題でこの数値がどういう意味を持っているのか。目標を設定したとき、その達成率が何を意味している

- のか。数値をどう見るかという意味で報告書がとても良いと思う。（委員）
- ・他自治体も大学生の県内就職率は20%程度で難しい現状がある。外部からの流入、戻ってくる人がどのくらい、どういう目的で戻ってきているのか、実態の把握と分析が必要なのではないか。県内でも大きな企業では本社（東京）採用となって、地元採用の数値には上がってこない。地元をやがて戻ってくるという意味で企業を選べるような地域をつくるということを目指すべきではないか。（委員）
 - ・目に見える支援というところで広告などを使って、「地元を力を入れていること」や「戻ってきたら何かサポートがあるという期待感」が大事である。（委員）
 - ・流入が他に比べてどうなのかというものを知りたい。（委員）
 - ・広島で中学生のうちに地元のイベントをさせることで地元愛を育み、他県に出た人が戻ってくるようなことが起きている地域がある。（委員）
- ⇒流入については、報告書の15ページに年代別の流入数を示している。30歳代以降では戻ってきている人の方が多い。大学生の流出が課題であり、定着が難しいので、いずれ宇部市に戻ってきてくれる方にフォーカスしていく必要がある。（事務局）
- ・現状と課題の整理に思うことはあるが、商店街や商業者が忘れられそうになってきている。行政がやっているイベントなどの取組には疑問がある。生活者のにぎわいとなるためには、その日だけ人が集まるのでは不十分である。（委員）
 - ・生活者のにぎわいを取り戻すには相当手遅れである。ただ商業をするだけではなく、地域のコミュニティと密接に絡んでおり、我々が考えている方向と違うということは行政担当に伝えてきているが伝わりにくい。（委員）
 - ・農業も後継者不足であったが、農業も商業も生活できないから辞めていく。後継者がいても後を継がせても生活ができない現状がある。産業振興という大きなことの中では微々たることではあると思うが、長期的にはまちなか人口を増やしていく必要がある。コンパクトシティという話があったが、人口減少に対応する方策の一つだと思う。地方都市を運営していく上で、理解がないと難しい。（委員）
 - ・ここに書いてあることが現実的にできるのかどうか、誰がどうやってやるのか。まちづくりは長期戦、何十年単位で次の人に渡していかないといけない。人と人とのつながりが感じられない施策は将来的にどうなのかと感じる。（委員）
 - ・飲食業からの意見として、重点施策4、基本方針4が一番接している部分である。宇部市は飲食に関しては個人のお店が県内でも圧倒的に多い。大変魅力のある地区であると言われているが、地元の人たちには認識されていない。（委員）
 - ・飲食業は、地元の企業などから恩恵を受ける川下の産業である。企業が強くなり、従業員の収入が増え、娯楽や飲食にかかる支出の割合が高くなる。組合の活動において、市と連携していくことが重要である。（委員）
 - ・重点施策4、基本方針4で機会や場の創出としているが、実際にこれを利用すべき市民、ターゲットをどこに据えているのか、把握できていない。飲食もターゲットに合わせていくことで高い効果が期待できるのではないか。（委員）
 - ・利用者の人の動き、利用希望、魅力を感じているのかはこれからだと思う。その結果をいただき、足並みを揃えることが大事だと思う。（委員）
- ⇒方針4ではウォークアブルやエヴァンゲリオンの活用など、ターゲットは大きく市民となる

- が、個々のターゲットはあるかと思う。市民の意見に関しては並行して総合計画で把握しているが、必要に応じて個別具体的なアンケートを取っていくことも考えていく。（事務局）
- ・物流としては重点施策２・３が該当する。人材が課題で省人化、省力化として夜間交代の際、管理者が健康チェックするための人員確保が難しく、ＡＩ導入が可能になってきていることには期待をしている。（委員）
 - ・今年からトラックドライバーに外国人起用が認められた。宇部市ではあまり実績がないが、会社ではネパール人を育てている。即戦力ではなく、日本語教育や日本文化などを教育して育てていく形で動いている。（委員）
 - ・日本語教育については、市が実施されているものもあるが、自転車での移動に限界があるので、まちなか（教育の開催場所）に出てくることが難しい現状がある。住んでいる場所の近くで教育が受けられたらよい。企業としては、寮に住まわせるようなことができたと思う。（委員）
 - ・外国人雇用については、宇部市はまだやることが多い。日本語学校もない。（委員）
 - ・市はGX戦略地域の認定に向けて取り組んでおり、国から認定される予定と思うが、認定を受けた場合の経済効果や中小企業で賄っている仕事が大企業に流れてしまう心配をしている。（委員）
- ⇒宇部市への経済効果はまた確認する。（事務局）
- ⇒大きい企業があったとしても、宇部市の産業は市内循環が特徴でもあるので、中小企業への流れもあると思う。それをきっかけに宇部市全体の経済が良くなればと思う。（事務局）

議題（３）中間見直しの今後のスケジュールについて

≪資料１（スケジュール部分）について説明≫

⇒質疑・意見は特になし

その他 アンケート意見

- ・山口県はGX戦略地域制度（コンビナート等再生型）に認定されるよう注力している。宇部・山陽小野田地区は、クリーンエネルギー製造拠点、廃棄物資源循環拠点を目指す計画となっている。この計画に宇部市としても協力していく必要があると考える。その場合、今後の産業振興計画にも大きな影響があるので、調査の上、必要であれば今後の見直しに織り込んでいただきたい。（委員）
- ・地元企業の魅力発信に関するイベントでは、市内の高校生の参加者を十分に募ることが難しいと予想される。本校では６月に全校で地元の企業見学を開催している。そのような取組の中で、企画やバス代への支援をいただくことで、より効果的な取組になると考える。（委員）